

真理を求め努力を惜しまぬ生徒 互いを認め合う思いやりのある生徒 心身ともに健康で責任を果たす生徒



浜頓別町立浜頓別中学校  
学校だより 第5号  
R7年 7月23日発行  
文責・編集・発行：教頭

## 進む路はいずこか

7月に入り、気温の高い状態が続いています。健康な心身を育むため、SUPや体育など、可能な限り屋外で活動しています。熱中症には十分に留意するとともに、熱中症っぽい症状が出た場合には、速やかに保健室で休ませるなどの対応をしております。

さて、1年生は、「学び方」を学びに2, 3年生の授業見学を行いました。授業に向かう姿勢（授業に集中し、私語を慎むなど）や、学び合う・聴き合う場面での声の大きさなどについて、気付きを得たようです。2, 3年生も、1年生に授業を見せるということで、よい緊張感の中で授業に向かうことができたのではないのでしょうか。よい学びの姿勢を伝承し、浜中の文化にしてほしいと思います。



## Career Day!

7月9日（水）は、3年生にとって、未来につながる学習の日になりました。

午前中は、日本生命旭川支社の小堀安由様を講師に迎え、生活費や初任給といった具体的なお金の話から、人生設計について学びました。

午後からは浜頓別高等学校、稚内高等学校様が来校し、3年生向けの学校説明会が開かれました。各校の学校生活の様子や、高校卒業後の進路を見据えた高校選びの大切さを学んだことと思います。



## Internship Days!

7月17～18日は、町内の各事業所様の協力を得て、2年生の職場体験学習を行いました。働きがいや大変さなどを体験しながら学び、自分が「誰のために何をしたいのか」ということを考えるきっかけになってほしいと思います。



# Outing Day!

1年生は、ベニヤ原生花園へ遠足に行きました。軽快な足取りで、予定を上回る早さで到着し、草花や海辺の景色を楽しんでいました。

町の観光資源の一つについて知見を深め、今後学習する漁業や林業等も含め、ミライの町のあり方について、考えるきっかけになればと思います。



## 【前期いじめアンケートの結果について】

本校では、6月にいじめアンケート調査を行い、6件のいじめを認知しました。6件すべてに対応し、解決に向けて動いております。

また、本校のいじめ防止基本方針がHPに掲載されておりますので、ご確認ください。

## 【夏季休業中の学校閉庁日について】

本校では、8月12～15日を学校閉庁日といたします。週休日を含め、8月9～17日の期間は何かありましたら、浜頓別町教育委員会（2-2525）までご連絡いただきますようお願いいたします。

## 親子の会話できてますか？

子どもが中学生になり、部活動やら地域の習い事やらで家にいる時間が減り、いつのまにか普通の会話が減っていきませんか？

そして、普通の会話が減っていくと、「何を話したらいいんだ？」ってなりませんか？

私はなるべく「どうでもいい話」をするように心がけています。必要なときはマジメな話もしますが。また、親として、子どもの現状に納得していないことがあるのなら、「で、どうするの？」

「じゃあ何するの？」と、次やるべきことに目を向けさせるように話すよう心がけています。

先日受けた研修の中で、「時には【相談】より【雑談】が大事」とありました。

普段の何気ないコミュニケーションを大切にしたいですね。



## 『社会とつながる夏休み』

校長 明石 貴宣

明日から夏休み。今年度の3分の1が終了しました。あらためて、ご家庭と地域の皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

さて、学校でも、「社会とのつながり」を意識することができる活動をできるだけ取り入れるようにしていますが、夏休みに家庭や地域において実感する「社会とのつながり」は、学校での学びとは違う効果があると思っています。

まずは時間の使い方です。学校では日課や時間割に沿って学習したり給食を食べたりしますが、家庭では自分で時間の使い方を決め、ゲームやスマホの誘惑にも負けず、学習したり生活したりしなければなりません。ノーチャイムどころの騒ぎではありません。

次に人との関わりです。地域のイベントに参加したり、久しぶりに親戚に会ったり、ちょっと遠くへ行ったりなど、家族や地域の方々と接する機会も多くなることでしょう。普段は忙しくてゆっくり話す時間がとれない家族とも、コミュニケーションをとるいい機会です。

生徒には、校長先生からの夏休みの宿題として、今日の集会で二つの課題を出しました。

①夏休み中、家族に「ありがとう」と言うこと。

②町の中で、自分からあいさつできるようになること。

浜頓別で育った子どもたちには、互いを尊重した人間関係を構築する力やコミュニケーション能力を身に付け、多様で複雑な社会の中で一歩リードした存在になってほしいと思っています。特別な知識や技能の必要な課題ではありませんが、社会につながる課題です。そして、家庭や地域の中で取り組むことができる課題です。

一回り成長した子どもたちに会えるのを楽しみにしています。